

2006年2月14日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 弘治
 コード番号 8233

2006年1月度 高島屋営業報告

【総計】(前年対比、単位：%)

株高島屋計	分社4店含む実質
+0.1	+0.6

1月度の売上は百貨店事業、広域事業ともに前年実績を上回り、分社4店含む実質では+0.6%となった。前年実績のクリアは9月度以降、5ヵ月連続となった。

分社4店とは、関西地区の岡山高島屋・岐阜高島屋・米子高島屋、関東地区の高崎高島屋です。

【百貨店事業概況】(前年対比、単位：%)

分社4店除く	18店計
0.1	+0.4

1月度は初売りやクリアランス等の営業展開の奏効、厳冬に伴う冬物衣料や雑貨の堅調な売上推移により、月初から前年実績を上回った。下旬には関東地方で降雪があったものの18店計では+0.4%となった。関西地区は+0.3%、関東地区は+0.5%で、店別では東京店・横浜店・京都店の大型3店のほか、玉川店・柏店・岐阜店・高崎店等の9店が前年実績をクリアした。

【店舗別概況】(前年対比、単位：%)

関西地区	大阪店	京都店(京都店単店)	泉北店	岡山高島屋	岐阜高島屋	米子高島屋
売上高	1.5	0.3 (+0.0)	1.4	+2.1	+19.3	+0.6
入店客数	5.8	4.9	+0.4	0.8	+11.6	+1.6

関西地区合計	
分社3店除く	9店計
0.1	+0.3

大阪店の売上高には和歌山店・堺店の売上高を、京都店の売上高には洛西店の売上高をそれぞれ含みます。

大阪店・京都店の入店客数はそれぞれ単店になります。

関東地区	東京店	横浜店	新宿店	玉川店	立川店	大宮店	柏店	高崎高島屋
売上高	+0.5	+2.0	2.1	+1.6	1.2	3.7	+0.7	+3.6
入店客数	1.5	2.1	9.0	1.2	3.8	6.4	1.6	3.3

関東地区合計	
分社1店除く	9店計
+0.2	+0.5

横浜店の売上高には港南台店の売上高を含みます。

横浜店の入店客数は単店になります。

関西地区では、大阪店は紳士服・宝飾品・食料品等が前年実績をクリアしたものの、特選衣料雑貨・リビング等が伸び悩み、前年実績を下回った。京都店では特選衣料雑貨や婦人雑貨等が好調で、動きが鈍かった子供服等をカバーし、前年実績をクリア。岐阜店は全館リニューアルで強化した婦人服・婦人雑貨・食料品等の売上伸長が顕著で前年から2桁売上を伸ばした。関東地区では、東京店・横浜店は特選衣料雑貨が前年から2桁の売上伸長、紳士服・婦人服・食料品等も前年実績を上回った。新宿店は宝飾品・リビングが前年実績を上回ったものの、衣料品・雑貨等のファッション商品群が伸び悩み、前年実績には至らなかった。また、玉川店では特選衣料雑貨・宝飾品が、柏店・高崎店でも宝飾品が、前年から2桁売上を伸ばした。

【広域事業概況】(前年対比、単位：%)

	法人事業	通販事業	広域計
売上高	3.8	+11.6	+3.0

法人事業は、企業向け制服の受注は好調であったが、販促品等で前年の大口物件の反動減があり前年実績を下回った。通販事業は厳冬によるファッション商材の好調に加え、リビング・食料品も前年実績を上回り、2桁増となった。

【商品別概況(百貨店協会商品区分)】(前年対比、単位：%)

	株高島屋計	分社含む実質
紳士服・洋品	0.4	0.4
婦人服・洋品	+0.3	+0.9
子供服・洋品	5.5	5.8
その他衣料品	+5.2	+5.3
衣料品計	0.0	+0.3

	株高島屋計	分社含む実質
身のまわり品	+3.8	+3.9
家具	8.8	7.1
家電	14.8	14.1
その他家庭用品	5.7	5.6
家庭用品計	7.1	6.6

	株高島屋計	分社含む実質
食料品	+0.2	+1.1
食堂・喫茶	2.0	1.1
雑貨	+0.6	+1.4
サービス	10.0	9.9
その他	+3.4	+2.5
合計	+0.1	+0.6

当社分類による百貨店事業の商品別概況

厳冬の影響を受けてクリアランスは防寒衣料・雑貨が活発に動き、在庫の不足感も見られた。紳士服(前年対比+0.6%)や婦人服(同+0.1%)ではコートやスーツ、セーター等が好調。紳士雑貨(同-0.4%)や婦人雑貨(同+1.2%)でもカンヤマフラーやファー、手袋等の動きが良かった。春物衣料では春色・地厚のスプリングコート等には動きが見られた。その他、特選衣料雑貨(同+3.2%)をはじめ、呉服(同+1.2%)、美術(同+0.7%)、輸入時計等が好調な宝飾品(同+0.1%)等の高額商品群も前年実績を上回って推移した。